

(有)マルハラ木工代表取締役

寺原正春氏 (42)



起業で急成長を遂げる経営者がいる一方で、先代の事業を継承し、成長、発展に挑戦する若手経営者がいる。厚木基地の航空機音鳴り響く、神奈川県・綾瀬市にあるマルハラ木工の経営者、寺原正春さん（日本道経会互敬塾神奈川支部長）がその一人だ。

四十二年前、父親が家具の卸売で創業し、総桐の無垢板にこだわった高級タンスを扱っていた。「高校生のころ、アルバイトで婚礼タンスを納品するとお客様から祝儀袋がもらえました。家具屋はもうかるんだなって思っていましたね」と寺原さん。家業を継ぐために、大学卒業後は仕入先で修業をしていた。



先代の春義さん

リフォームで 新たな道を開いた継承者



厚木基地と東名高速道路にちょうど挟まれる位置にある店舗。防音対策のリフォーム受注も多い

有限会社マルハラ木工

創業/昭和43年
設立/昭和58年1月
本社/〒252-1105
神奈川県綾瀬市夢川2-18-3
TEL/0467-76-7212
FAX/0467-76-7217
資本金/300万円
売上高/1億2500万円
従業員/8名

事業内容/家具、オーダー家具、システムキッチンの設計・販売・施工、リフォーム

<http://www.5b.biglobe.ne.jp/maruhara/>

四年後、思わぬ出来事が寺原さんを襲う。父親が倒れたのだ。脳内出血だった。それを機に家業に入るも、集中治療室の父親とは引き継ぎもできない。さらにマンション住宅の増加などによる住宅事情の変化が、タンスの需要に痛手を与えていた。

途切れた滑走路の前に、若き継承者は重圧と赤字にとにかく耐え続けた。

その後、父親は回復し、仕事復帰を果たすが、寺原さんの試行錯誤は続く。そんなマルハラ木工を支えたのは、先代の言う「お客様へのサービス」だった。

「皆さんめったにあることじゃないからね、迷ってしまうのは当然なんです」と話す寺原さん。オーダー家具受注の際は顧客の要望を伺い、その上でこちらからさらに尋ねる。「どんな用途で使いますか」「ここには指一本くらのスペースがあったらいいかな」と、細部に至るまで顧客との会話を大切にしている。

やがて家具という枠を超え、寺原さんはキッチンの設計、施工などをするようになった。電気や水道回りの技術も、現場の職人に教えてもらいながら身に付けていった。ガス取り扱いの免許も取得した。

シリーズ J Junior Japan Joint >>>

先代が家具屋として創業した会社に、リフォームという大きな収入の柱が立った。

四十歳を前に、社長を交代した寺原さんは、言葉での引き継ぎはほとんど無かったが、その後ろ姿から、事業に懸ける思いは着実に継承していた。寺原さんは引き渡し時にちょっとした消臭剤などを贈呈しているが、これは、先代がタンス購入者にその家に合うようなスリッパラックをプレゼントしたり、引越しゃ模様替えの際に無償で駆け付けていた姿になぞらえてのことである。

ある日のこと。寺原さんの元に修理の依頼が入る。先代がタンスを売った先の孫からだ。聞けば「祖母の家が火事になり、ほぼ全焼に近い中、寺原さんのところのタンスだけが残りました。焦げたタンスを手入れしてもらえないか」との話だった。「祖母は亡くなってしまいましたが、タンスの中に燃えずに残ったものが形見になったんです」と、孫は込み上げる思いを寺原さんに吐露した。

桐の無垢板にこだわり「百年保証」「孫の世代までの保証」に意欲を燃やす寺原さんにとって、この出来事は忘れられない。

こだわりのタンスで、世代を超えた家族の絆を紡ぐ寺原さん。今年五人目の子宝を授かり、寺原家にもう一つ、タンスが必要になる。